

現状でのまとめ(1)

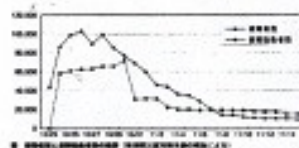
2004年11月6-7日の調査のまとめ

- ★ ウェブサイトで多くの情報が即座に公開されたのも特色の一つ。
- ★ 川口町中心部の被害は確かに大きい。川口町田舎山地区の被害はさらに大きい。余震で崩壊した家屋もあるとのこと。
- ★ それらに比べると小千谷市街の被害は小さく、長岡市中心部の被害は微々たるものである。
- ★ 被災者からは、積雪までの緊急の道路設備と、仮設住宅が無理でもせめて家財道具の保管場所を、との要望がある。
- ★ 住宅の被災度判定と近隣の土砂崩壊危険度とに矛盾があるとの声が多く聞かれる。住宅が青ラベルでも家に居られない。
- ★ 新幹線は脱線のみが目撃されているが、橋脚やトンネル内の構造被害の方がより深刻な問題ではないか。報道関係者はそれに気づいていないらしい。
- ★ 山古志村の被害は最も深刻らしいが現状では調査に入れない。

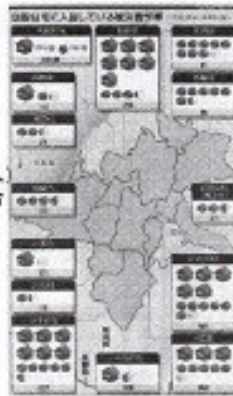
[図版 42]

避難者数の推移と 仮設住宅入居者

避難者数(下図、11/15時点で約1万人と仮設住宅入居者(右図、1/4現在で合計2,872世帯)



[図版 44]



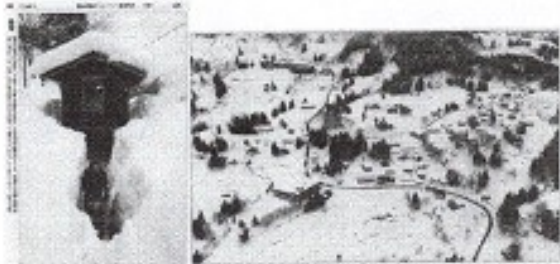
現状でのまとめ(2)

2004年12月5-7日の調査のまとめ

- ★ 小千谷市西部・武道窪・和南津・新道島などで追加調査を実施。いずれも集落の被災度が高い地域であった。特に新道島は国鉄自動車道の被災度の最も高い地域と隣接していた。
- ★ 小千谷市小栗山・山古志村(役場周辺・種芋原)など急沼丘陵の大規模な斜面崩壊の現場を確認し、塊状泥岩の脆さを実感した。
- ★ 各所に使用されている大型土嚢は7月の新潟水害で使用されたものと同じであるらしい。先般の水害の経験が生かされたか。
- ★ 仮設住宅の建設現場、ライフライン・道路・鉄道の復旧状況を一部ではあるが確認することができた。仮設住宅は兵庫県南部地震の時と同じ仕様であるらしい。積雪対策は大丈夫か？
- ★ 積雪量は多くの被災地で3メートルにも達するとのこと。震災と雪害による複合災害が危惧され、今後の成り行きが注目される。

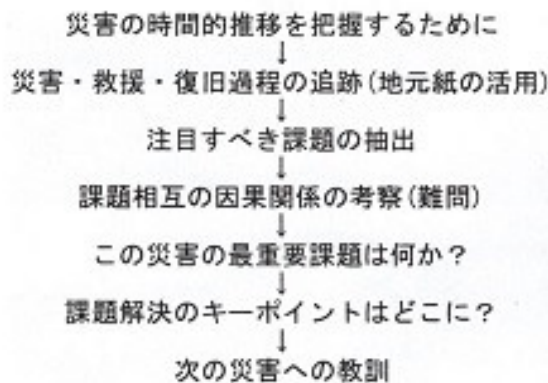
[図版 43]

豪雪地帯と化した最近の被災地 (1月23日の朝日新聞より)



栃尾市半蔵金 山古志村中心部(千前:山古志小,奥:役場)

[図版 45]



[図版 46]

被害統計量の時間的推移(人的被害と避難者の場合)



[図版 47]

斜面崩壊の多発について



[図版 48]

さらなる改良を経て
震災の状況が
ひと目で把握できるように

行政の防災担当者・インフラに関わる
機関の担当者・住民・ボランティア・
マスコミ関係者・研究者などの協力による
効果的な防災対応を!

[図版 49]